

『10月7日からのGaza』
上映後のトーク

アフリカのジェノサイドと わたしたちの日常？

2025年7月18日
村田はるせ

私のお話では、パレスチナもイスラエルも出てきません。

しかし、ガザで現在起きていることは、別のジェノサイドに関心が向かないようにするためでは？　と思うことがあります。

私たちはもはや携帯電話なしでは暮らせません。

『10月7日からのガザ』の動画のほとんどは、携帯電話（スマートフォンなど）で撮影されたものです。

今回は、「私たちが携帯電話などの電子機器を使いつづけることと、コンゴでの女性へのジェノサイドは繋がっている」というお話です。

女性を標的とするジェノサイド

「開業以来、パンジ病院は約6万人の性暴力サバイバーを治療した」

(デニ・ムクウェゲ著『勇気ある女性たち』中村みずき訳・米川正子監修、大月書店、2023年、94頁。

※英語原著の出版は2021年。)

- コンゴ民主共和国出身のデニ・ムクウェゲ(Denis Mukwege:1955-)医師は、1999年に同国東部の南キブ州の州都ブカヴにパンジ病院を開設。
- パンジ病院は、レイプ被害にあった多くの女性の外科的治療と精神的ケア、社会復帰支援を行ってきた。
- コンゴでは、毎年40万人の女性がレイプ被害に遭っている。
- 2018年にノーベル平和賞を受賞。



参考にした本



- おもに右上の『勇気ある女性たち』（デニ・ムクウェゲ著）を参考にしています。
- 文献表は最後に掲げます。

舞台はコンゴ民主共和国 [以下ではコンゴ]

※アフリカには「コンゴ共和国」という国もあります。



面積：日本の約6倍
人口：9,901万人（2022年）
首都：キンシャサ

コンゴの年表：紛争・独裁の歴史

1960年：ベルギーからコンゴ共和国として独立。コンゴ動乱。ルムンバ首相暗殺。

1965～1997年：モブツ独裁政権（国名はザイール共和国に）。

1994年：隣国ルワンダでジェノサイド勃発。難民200万人流入。

1996～1997年：第1次コンゴ戦争。モブツ政権崩壊。

ローラン・デジレ・カビラ政権。コンゴ民主共和国に。

1998～2003年：第2次コンゴ戦争。コンゴ東部での紛争は現在まで継続。

（両戦争の死者推定500万人、レイプ被害は何十万人も(ムクウェゲ『勇気ある女性たち』:196)

2001年：ローラン・デジレ・カビラ大統領暗殺。

2006-2018年：ジョゼフ・カビラ政権。

2019年～：チセケディ政権。

2025年：1月、2月に武装組織M23がコンゴ東部の北キブ州都ゴマと南キブ州都ブカヴを占拠。

占領したゴマ市街をパトロールする反乱軍M23の兵士 (202

5年1月29日Jeune Afrique) <https://www.jeuneafrique.com/1700792/politique/paix-contrats-miniers-investissements-quels-sont-les-enjeux-de-laccord-rdc-rwanda-bientot-signé-a-washington/>



コンゴの豊富な鉱物資源

コンゴ東部で採掘され、「紛争鉱物」となっているレアメタル

※「紛争鉱物」は、紛争の資金源となっている鉱物。

金：スマートフォンやパソコンなどの電子機器の基盤部分に。

スズ：金属同士を接合する、はんだとして。

タングステン：一部はスマートフォンの着信を伝えるバイブレーターに。

タンタル（コルタンとして採掘）：タンタルコンデンサに。PC、携帯電話、ゲーム機の

小型化を可能にした。電子機器のほか、航空宇宙機器、医療機器分野で使用。

コンゴでの産出量は世界一。＝コンゴがなければ携帯電話は生産できない(?)

(参考)

・WOW, 「Info Texture, Study 01 世界のレアメタル産出量を体感する」

<https://informs.design/infotexture>

・華井和代「第5章 コンゴ・日本・世界」『ムクウェゲ医師、平和への闘い：「女性にとって世界最悪の場所」と私たち』 pp. 93-118。

コンゴ南部で採掘され、これから「紛争鉱物」になりそうなレアメタル

▶コバルト：リチウムイオン電池生産に。電気自動車開発の進展により、

さらに需要が伸びるとみられる。

コンゴでの生産量は世界一。

「世界のコバルトの需要は2024年に前年比14%増の約22万トンに達した。同年のコバルト生産（採掘）の国別シェアでは、コンゴ民主共和国が全体の76%を占めた。前年から3万4,000トン増加したという。」

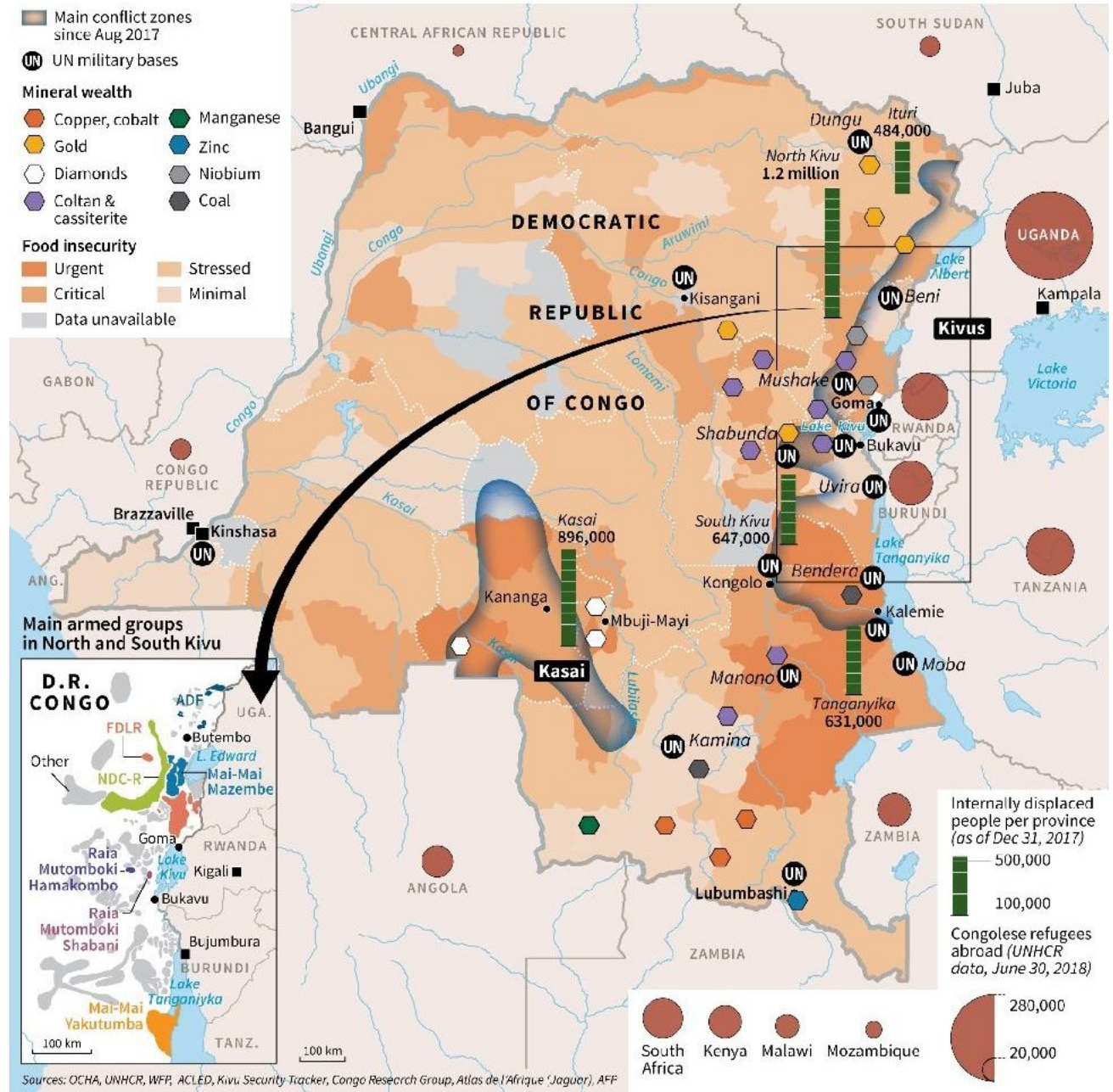
（JETRO,
ビジネス短信「2024年にコンゴ民主共和国でコバルトの世界生産量の76%採掘、供給過剰で価格下落」2025年6月2日付<https://www.jetro.go.jp/biznews/2025/06/2ec0c18d54b6d458.html>）

コンゴの鉱物産出地と 武装組織の活動地域（2020年）

<https://impakter.com/your-smartphone-could-have-contributed-to-devastation-in-the-drc/>

「現在、コンゴには100を超える武装勢力が存在していると言われる」（『コンゴ民主共和国を知るための50章』，246）

Democratic Republic of Congo



武装組織を操り、利益を得るエリートたち

デニ・ムクウェゲ著『勇気ある女性たち』より ※（ ）の数字は頁数

●武装組織のトップにいる軍閥は、「税金を課し、紛争鉱物の取引きに直

接、あるいは仲間を通じて関与している。その収入で兵士に給料を払い、

新たな武器を購入する」(158)

●「軍閥の上にのさばるのは、ビジネス、政治、軍事分野のエリートで、通常

は複数の分野にまたがっている。コンゴ、ルワンダ、ウガンダの首都に

ある大邸宅に住み、高級車を乗りまわす一方で、密輸、加工の第一段階、

さらに中東やアジアの市場への輸出を画策する者たちだ。彼らが共謀す

る多くの怪しい鉱山ビジネスや多国籍企業は、この女にも関係

デニ・ムクウェゲ著『勇気ある女性たち』より ※（ ）の数字は頁数

- 「戦争の武器としてのレイプ」

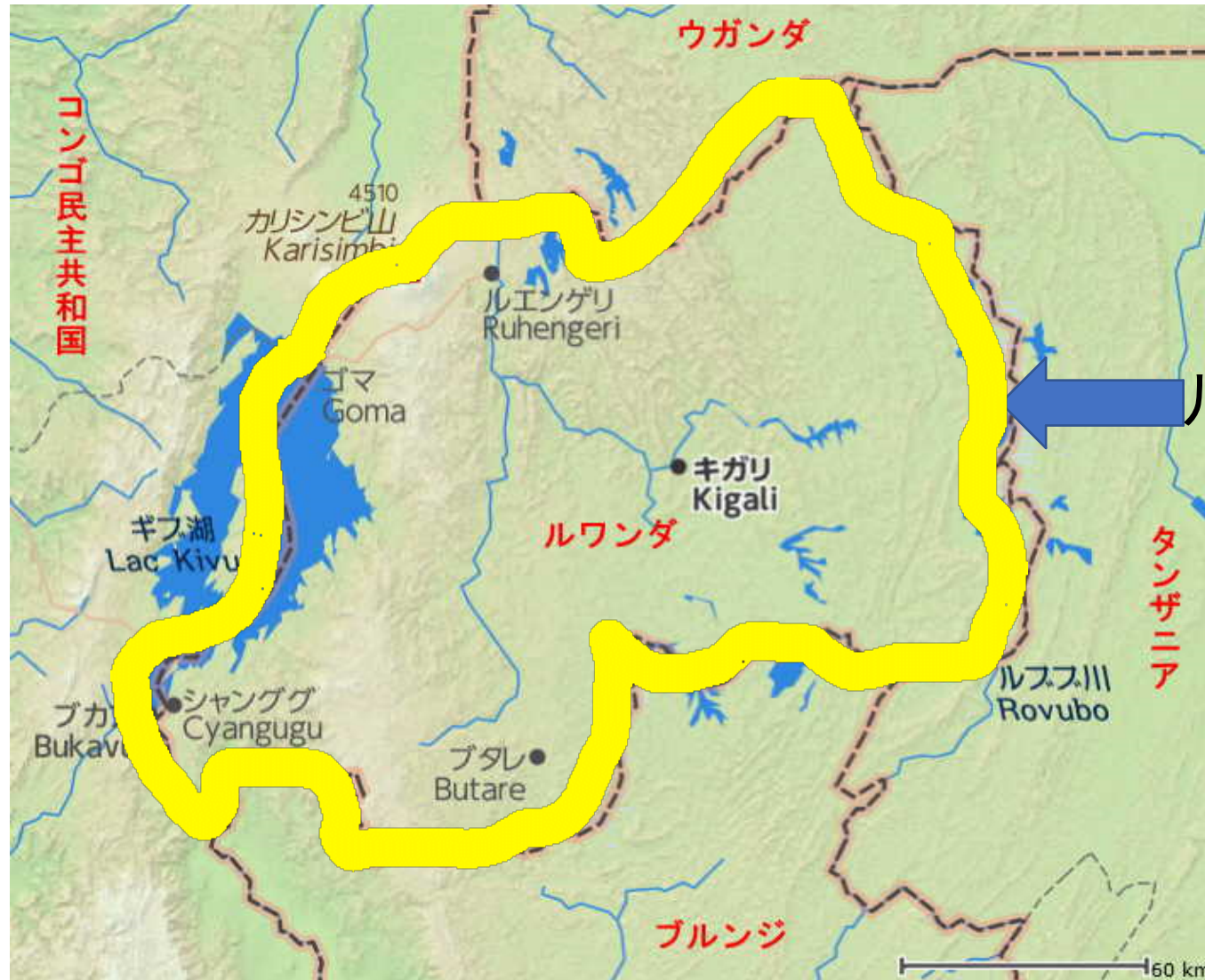
＝「軍事戦術として採用され、計画的におこなわれるものだ」(150)

「経済的動機が根底にある」(151)

- コンゴでこれほど女性へのレイプが起きている理由：

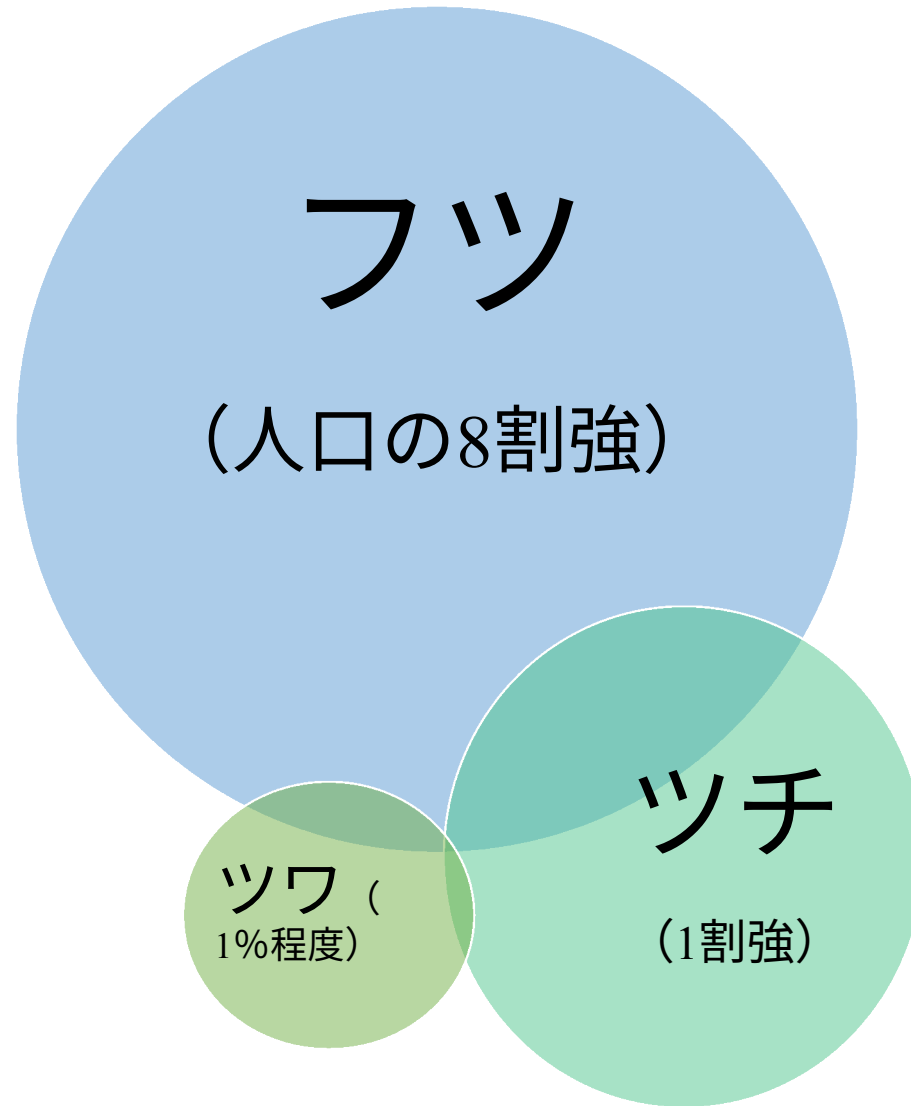
1996年と1998年の第1次・第2次コンゴ戦争の際のルワンダの侵攻により、ツチとフツの間の争いがコンゴに移ってきたことで、「ルワンダのジェノサイドの残忍で呆然とするほどの暴力が、ウイルスのように国境を超えてコンゴに入ってきたというのが、唯一妥当と思われる説明だ」(148)

ルワンダの地図

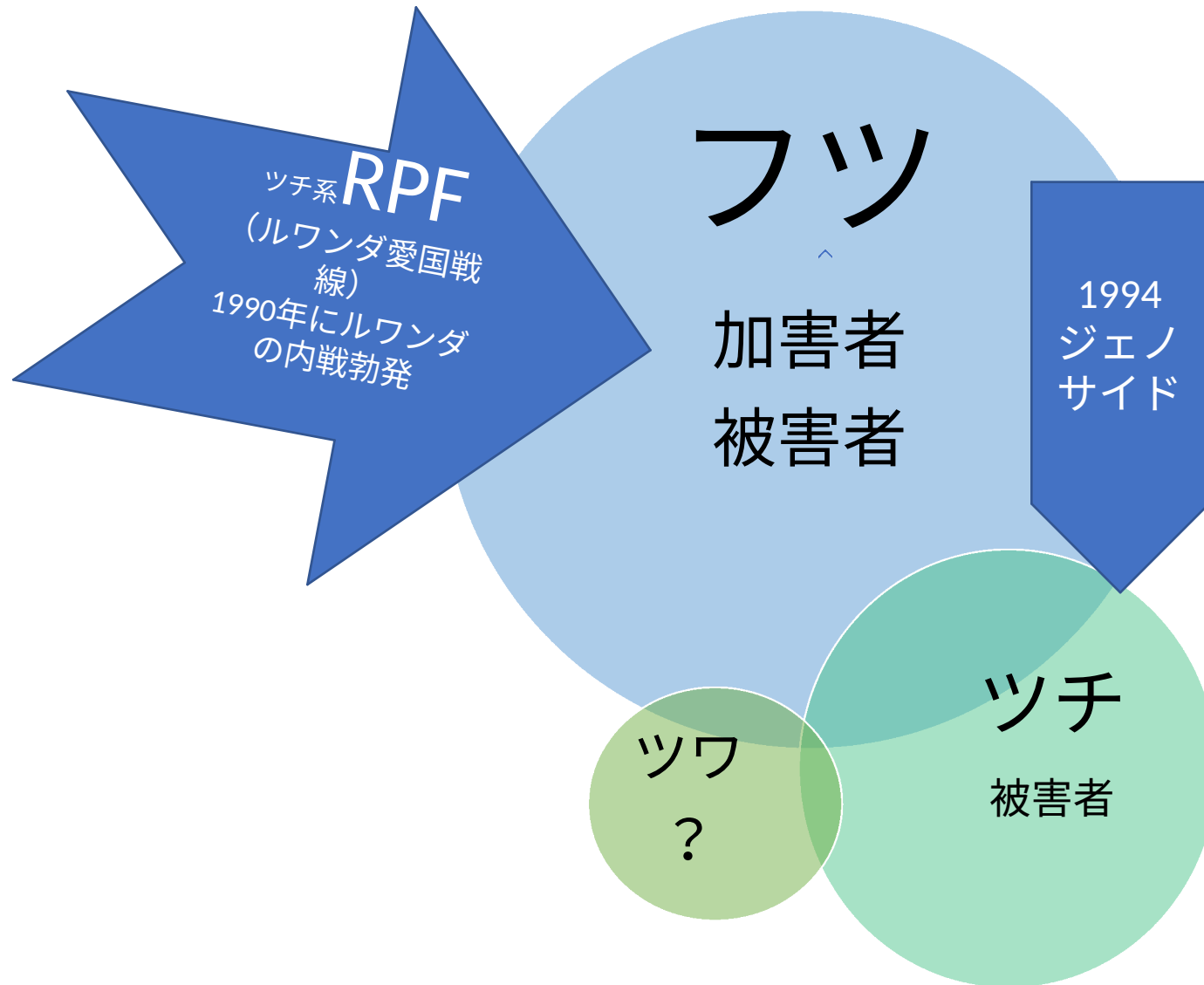


ルワンダ

ルワンダの民族



1994年ルワンダのジェノサイド：加害者・被害者



1994年ルワンダでのジェノサイド

コンゴ民主共和国
(元ザイール)

フツ難民

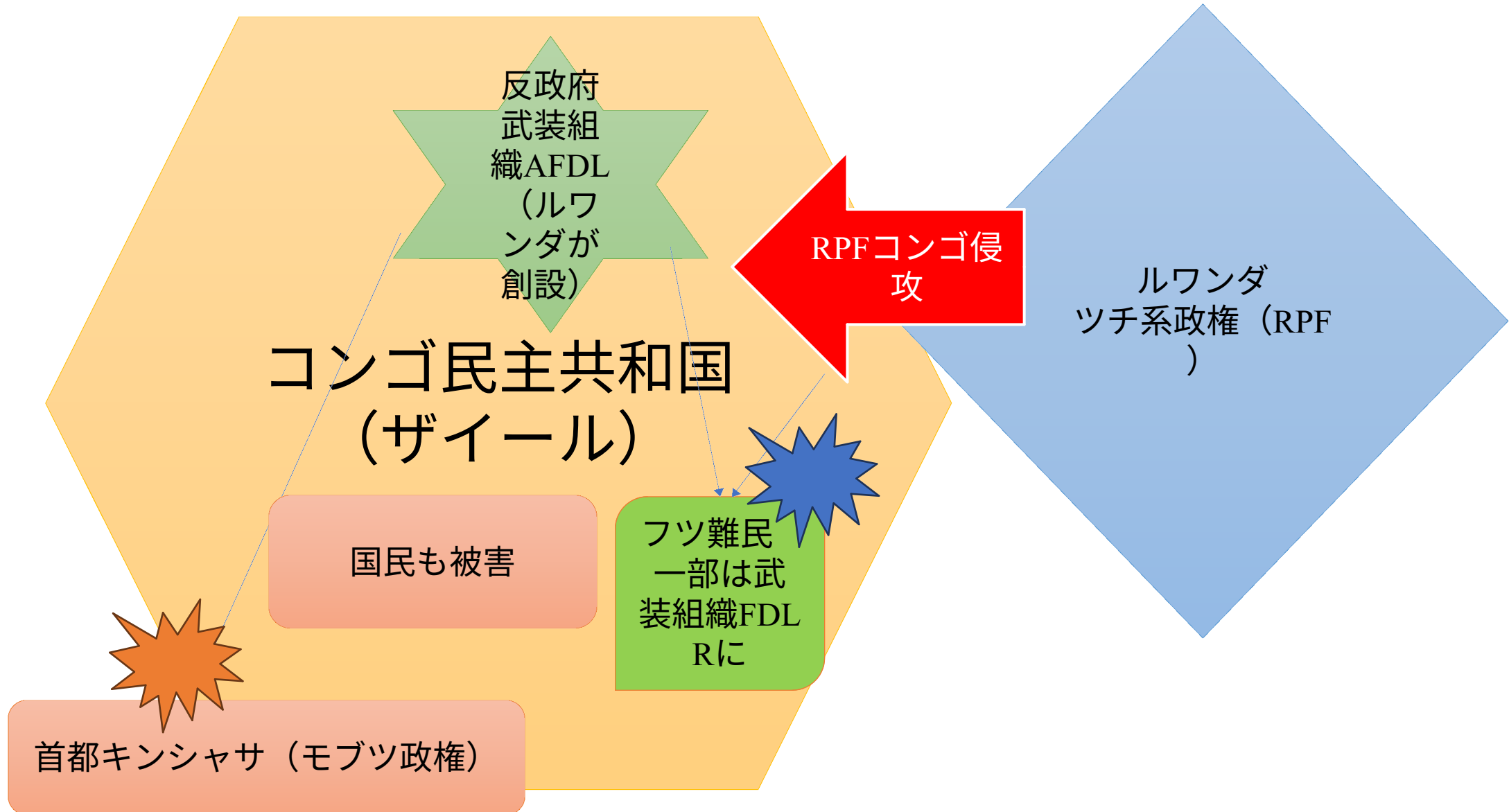
ルワンダ
ジェノサイド後
フツ系政権崩壊
ツチ系政権（ル
ワンダ愛国戦線：
RPF）誕生

ジェノサイド後、国外に脱出するフツ難民



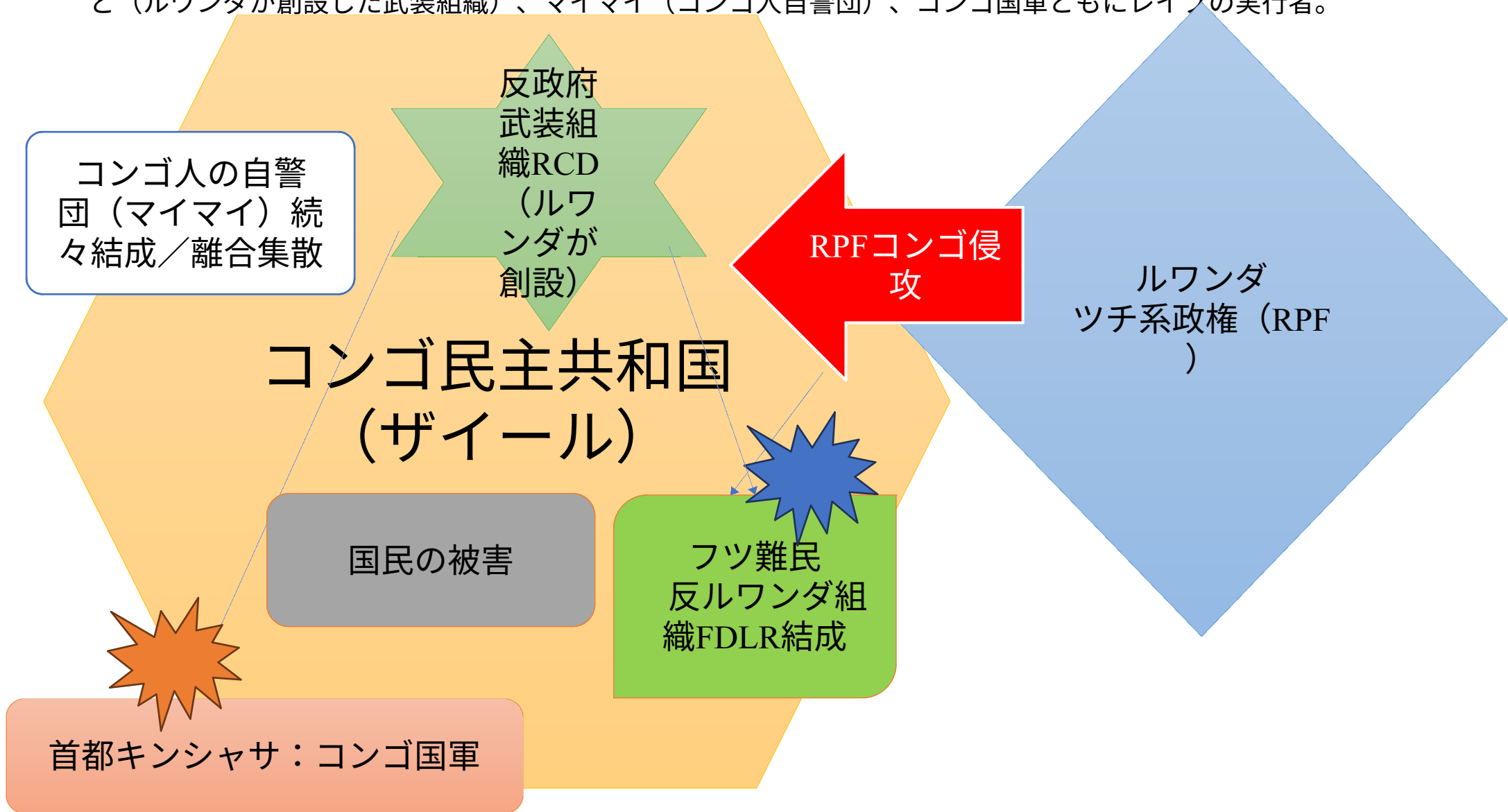
<https://www.expressandstar.com/news/world-news/2021/04/07/rwandas-president-praises-report-on-frances-role-in-1994-genocide/>

1996-1997年 第1次コンゴ戦争



1998-2003年 第2次コンゴ戦争

: FDLR（フツ系ルワンダ難民）、RPF（ツチ系ルワンダ与党）、RCDなど（ルワンダが創設した武装組織）、マイマイ（コンゴ人自警団）、コンゴ国軍ともにレイプの実行者。



鉱物・ルワンダ

- ルワンダは、コンゴで反政府武装組織を複数創設、支援し、その背後に隠れてコンゴに侵攻することを繰り返してきた。
- ルワンダは、武装組織への関与を今日まで否定。
ジェノサイドを実行したフツ系の武装組織（FDLR）からの「防衛措置」としている。
しかし国連の多数の報告書がルワンダの関与を指摘している。
- ルワンダは侵攻のたびにコンゴの鉱物を略奪し、現在も多くの鉱物がルワンダに密輸されているとみられる。

「コンゴ当局と国連は、ルワンダがコンゴ民主共和国からの鉱物の違法取引を通じて利益を得ていると定期的に非難しているが、ルワンダ政府は常にそれを否定してきた」（« Paix, contrats miniers, investissements... Quels sont les enjeux de l'accord RDC-Rwanda bientôt signé à Washington ? », *Jeune Afrique*, 2025年6月25日付）

武器としてのレイプはどのように使用される？

デニ・ムクウェゲ著『勇気ある女性たち』より ※（ ）の数字は頁数

- 「反政府勢力を支援しなかったと疑われる人物を懲らしめる手段としてレイプがおこなわれる。コンゴ国軍やライバルの民兵に協力するなど、敵対的であると見なされたコミュニティは、そこに住む女性が標的になる」(157)
- 「鉱山周辺の住民を追い払う方法としても利用される。鉱物が新たに見つかり、採掘職人が殺到し、土地や水の所有権や支配権をめぐる争いに発展することがよくある。地元住民を立ち退かせるため、
集団レイプが行われる。（...）私的な富のための住民の一掃を目的とした戦争の武器としてのレイプだ」(157)

コンゴ東部でのM23の勢力拡大に関する、コンゴールワンダ間の和平協定

●トランプ政権のアフリカ担当上級顧問のブーロス氏は、「ルビオ国務長官は5月中旬にワシントンでルワンダとコンゴの外相と会談し、和平協定の最終草案に合意する予定」、「しかし、その協定に署名する前に、ルワンダとコンゴは、米国と西側の企業がコンゴの鉱山やインフラプロジェクトに数十億ドルを投資し、ルワンダでの鉱物処理を含む両国の鉱業を支援するための二国間経済協定を米国と締結しなければならない」と語った。（Mills, Reuters, 2025年5月2日）

●2025年6月27日にルワンダとコンゴの外相が米国でルビオ国務長官同席のもと、和平協定署名。

トランプ政権の米国、コンゴ、ルワンダの「ディール」

●「米国がコンゴに提案している〔経済〕協定」は、「ウクファイナの鉱物に関する協定がウクライナに有利な安全保障措置を伴っていないのと同様、地上部隊の派兵を規定していない」としかし「民間の警備会社は、コンゴにおける米国の権益を監督することができる」。

●米国とルワンダが4月25日に署名した共同宣言では、「二国間の（鉱山から加工金
属までの）透明で、形式化された、合法的なエンドツーエンドのバリューチェーンの創設が求めている」。
「コンゴ当局と国連は、ルワンダがコンゴ民主共和国からの鉱物の違法取引を通じて利益を得ていると定期的に非難しているが、ルワンダ政府は常にそれを否定してきた。ルワンダには、金、錫、コルタンの精錬所があり、米国は精錬所がこの地域で採掘された鉱物のために使えると想定している。しかしコンゴは、鉱物がルワンダで加工さ

文献表

(著者名の五十音順)

片山夏紀・2020年『ルワンダの今：ジェノサイドを語る被害者と加害者』風響社。

加害者の2025年『ルワンダのガチャチャ裁判：ジェノサイドの被害者と賠償をめぐる対話』風響社。

本村太治・武内進一編著．2024『コンゴ民主共和国を知るための50章』明石書店。

スターンズ，ジェイソン・K．2024『名前を言わない戦争：終わらないコンゴ紛争』武内進一監訳，大石晃史など訳，白水社。

立石芽以子・華井和代・八木亜紀子．2024『ムクウェゲ医師、平和への闘い：「女性にとって世界最悪の場所」と私たち』岩波ジュニア新書。

華井和代．2016『資源問題の正義：コンゴの紛争資源問題と消費者の責任』東信堂。

ムクウェゲ，デニ&ベッティル・オーケルンド．2019『すべては救済のため：デニ・ムクウェゲ自伝』加藤かおり訳，あすなる書房。

ムクウェゲ，デニ．2023『勇気ある女性たち』中村みずき訳，米川正子監

電子サイトの記事

Mills, Andrew. 2025年5月2日, “Exclusive: US pushes Congo, Rwanda for peace accord and billion-dollar mineral deals,”

Reuters. [Exclusive: US pushes Congo, Rwanda for peace accord and billion-dollar mineral deals | Reuters](#)

Gras, Romain & Chanson, Romain. 2025年6月26日, “Paix, contrats miniers, investissements... Quels sont les enjeux de l’accord

RDC-Rwanda bientôt signé à Washington ?, ” *Jeune Afrique*. [Paix, contrats miniers, investissements... Quels sont les enjeux de l’accord RDC-Rwanda bientôt signé à Washington ?](#)